

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK

Urban Design Center Kashiwa-no-ha

ごあいさつ UDC Kが目指すもの

UDCKセンター長（東京大学教授） 出口敦



UDCKセンター長（東京大学教授） 出口敦

公・民・学の連携によるマス・コラボレーション

私たちは「街」に何を求めるのでしょうか。便利で安心して暮らせる環境はもちろんのこと、楽しみや出会いや交流を求める人もいるでしょう。また、そこに新たなビジネス・チャンスを求める人もいるかもしれません。社会的な視点に立てば、環境負荷の低減や高齢社会への対応、産業の育成や地域経済の活性化といった課題の解決も挙げられるでしょう。課題はますます多様化・複合化し、これに対する解決策も単純なものではなくなっています。私たちが求める「街」の実現のためには、目指すべき目標を共有しながら、これからの時代を担う新たなまちづくりの方策を考えていかなければなりません。

近年では、市民参画・地域主導型のまちづくり活動が活発に行われていますが、複合化した課題に対しては、【公】【民】【学】のそれぞれの立場で活動する様々な個人や組織が、様々な場面で臨機応変につながり、協働して解決に取り組むコラボレーションを進める必要があります。「大学」や専門家は、新たな技術や理論を積極的に街に応用すると共に、長期的・客観的視点から見たコラボレーションの方向づけをする上で、重要な役割を担うことになります。

公・民・学の主体と役割

【公】＝行政（官）、非営利組織（NPO）など、地域社会に必要な公的サービスを担う

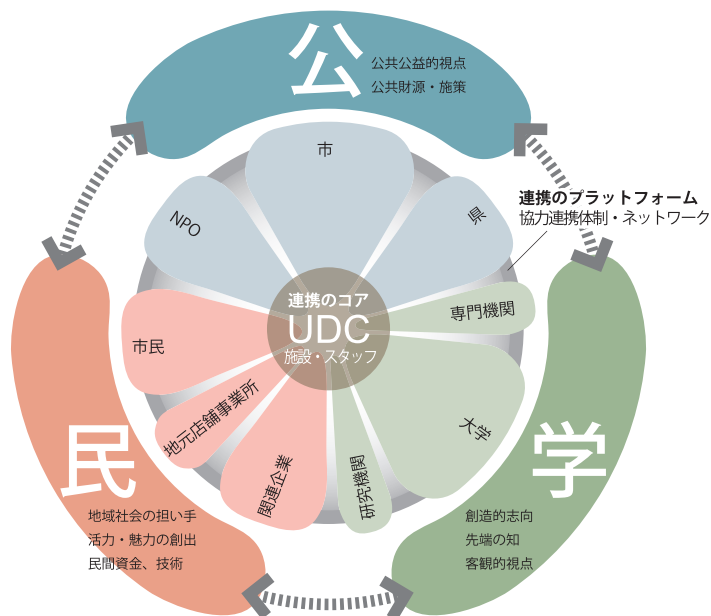
【民】＝市民、経済活動を行う企業など、地域の活力と魅力の向上を担う

【学】＝大学などの教育研究機関や専門家など、専門知識や技術を基に先進的な活動を担う

これからのまちづくりを解くカギは、「公・民・学」連携によるコラボレーションの総合化・複合化＝「マス・コラボレーション」にあり、それを推し進めるためには、仕組みと拠点づくりが必要です。

公・民・学のマス・コラボレーションを地域主体で実践し、街を創造する拠点、それがアーバンデザインセンター（UDC）です。

公・民・学の連携によるマス・コラボレーション イメージ



地域主体で街を創造する拠点

地域による機動的なマス・コラボレーションの拠点には、①活動の場、②専任の専門スタッフ、③共同運営体が必要です。活動が集まる場が地域の中心にあり、専任スタッフが日常的に個々の活動支援と方向づけを行い、共同運営体が全体をマネジメントしていくことで、はじめて継続的な活動や新たな活動を育てていくことが可能となります。

拠点の形態や運営は、街のスケールや条件によって異なります。行政が主導する場合もあれば、NPOや企業が中心となる場合や、大学や専門家が主導する場合もあるでしょう。

柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）は、東京大学教授であった北澤猛氏の提唱により、行政・民間・大学が参画して 2006 年 11 月に創られた我が国最初のアーバンデザインセンターです。まちづくりの企画・調整機能の一部を行政外部に独立した拠点として置くことで、先進的なマス・コラボレーションによるまちづくりに取り組んでいます。

UDCK執行役員（※：専任スタッフ）

センター長

出 口 敦 東京大学（教授）

副センター長

木 下 剛 千葉大学（教授）

坂 齊 豊 柏市（都市部長）

清 家 剛 東京大学（教授） ※センター長代理

※ 三 牧 浩 也 東京大学（特任研究員）

ディレクター

※ 藤 澤 敦 子 [施設企画・地域連携]

※ 三 原 えりか [都市計画・空間デザイン]

※ 地 引 裕 貴 [スマートシティ] 柏市 北部整備課

※ 佐 川 翔 哉 [スマートシティ] 千葉県 産業拠点整備戦略課

八 崎 篤 篤 [リビングラボネットワーク]

糸 島 唯 [教育イノベーション]

稲 村 規 子 [健康づくり]

鈴木 弘 樹 [建築・都市] 千葉大学教授

田 口 博 之 [建築・都市]

後 藤 良 子 [新産業創造] T E P 理事

柏の葉国際キャンパスタウン構想

ー 公・民・学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市

UDCKの活動フィールドは、千葉県柏市北部のつくばエクスプレス沿線、柏の葉キャンパス駅～柏たなか駅一帯の開発地区とその周辺（約13km²）です。エリア内には、東京大学柏キャンパス、千葉大学柏の葉キャンパスをはじめとする我が国を代表する研究機関が立地。県立柏の葉公園やこんぶくろ池自然博物館（計画整備中）など豊かな緑地環境にも恵まれています。

2003 年度から千葉県が中心となり「柏・流山地域国際学術研究都市づくり事業」に着手し、2008 年 3 月に、千葉県・柏市・東京大学・千葉大学の 4 者により「柏の葉国際キャンパスタウン構想」を策定しました（2019 年 11 月改定）。「公・民・学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市」づくりを理念に、大学と地域が空間的にも活動的にも融和し、そこから新たな文化や産業が生み出されるようなまちづくりを目指し、8つの目標を掲げています。

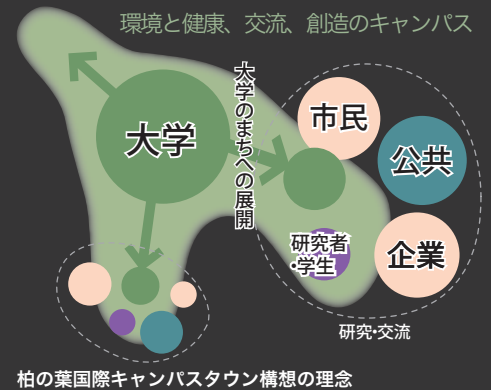
柏の葉国際キャンパスタウン構想 8つの目標 ※2014 充実化版

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 目標 1 環境と共生する田園都市づくり | 目標 5 健康を育む柏の葉スタイルの創出 |
| 目標 2 創造的な産業空間の醸成 | 目標 6 公・民・学連携によるエリアマネジメントの実施 |
| 目標 3 国際的な学術・教育・文化空間の形成 | 目標 7 質の高い都市空間のデザイン |
| 目標 4 サスティナブルな移動交通システム | 目標 8 イノベーション・フィールド都市 |

2011 年 12 月には、環境エネルギー問題に対する「環境共生都市」、超高齢化社会に対する「健康長寿都市」、持続的な都市経営・経済再生を担う「新産業創造都市」の3つを柱として、国の主導する環境未来都市・地域活性化総合特別区域に指定。2019 年には国土交通省のスマートシティ先行モデルプロジェクトにも選定され、次世代型のまちづくりを加速しています。



柏の葉エリアの中心部（※計画含む）



柏の葉国際キャンパスタウン構想の理念

UDCKの運営体制

公・民・学のステークホルダーによる共同運営

UDCKは、柏の葉のまちづくりに深くかかわる公・民・学の8つの構成団体による共同運営を基本としています。各構成団体の代表で「運営委員会」を組織し、施設や物品に係る経費、専任スタッフ等の人件費、基本的な活動経費は、各構成団体の持ち寄り（共同負担）により賄っています。負担区分や割合などは、まちの発展過程や各団体の意向に応じて、都度協議をしながら臨機応変に見直し、柔軟な運営を行っています。

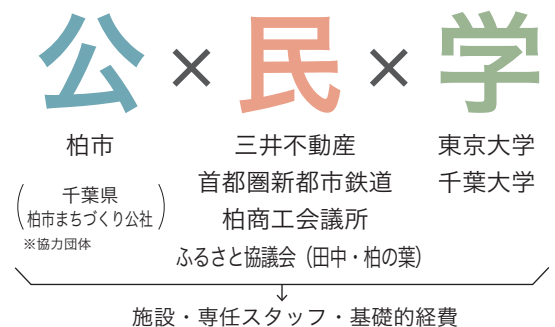
加えて関係公共団体や各種専門機関が、協力団体としてUDCKの活動を支援しています。

プラットフォーム型の組織運営

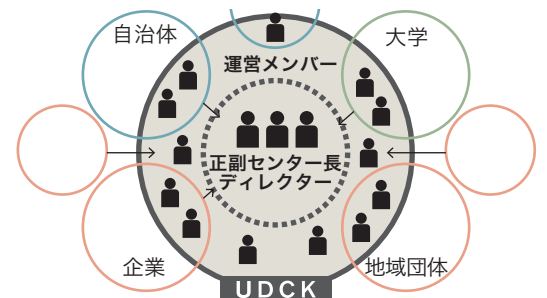
独立した事業体ではなく、まちづくりに関わる多様な主体がUDCKという場に柔軟に関与し、連携するプラットフォーム型の組織運営を志向しています。正副センター長とディレクターを中心に、まちづくりに係る主要メンバー間での密な情報共有を図るとともに、テーマ別の専門部会を設置・運営し、戦略づくりや個別プロジェクトの企画・調整を行っています。

UDCKを支える二つの法人組織

プラットフォームとしての任意団体「柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）」を母体としつつ、法人格を持つ団体として、調査研究・計画提案・デザイン調整等を担う①一般社団法人柏の葉アーバンデザインセンターと、公共空間の管理運営を担う②一般社団法人UDCKタウンマネジメントの二つの法人組織を設立しています。二つの法人は「都市再生推進法人」の指定を受け、UDCK全体の活動と一体性を保ちながら、契約行為や必要な独自事業を担い、柏の葉のまちづくりを支えています。



施設・専任スタッフ・基礎的経費



UDCKのプロジェクト

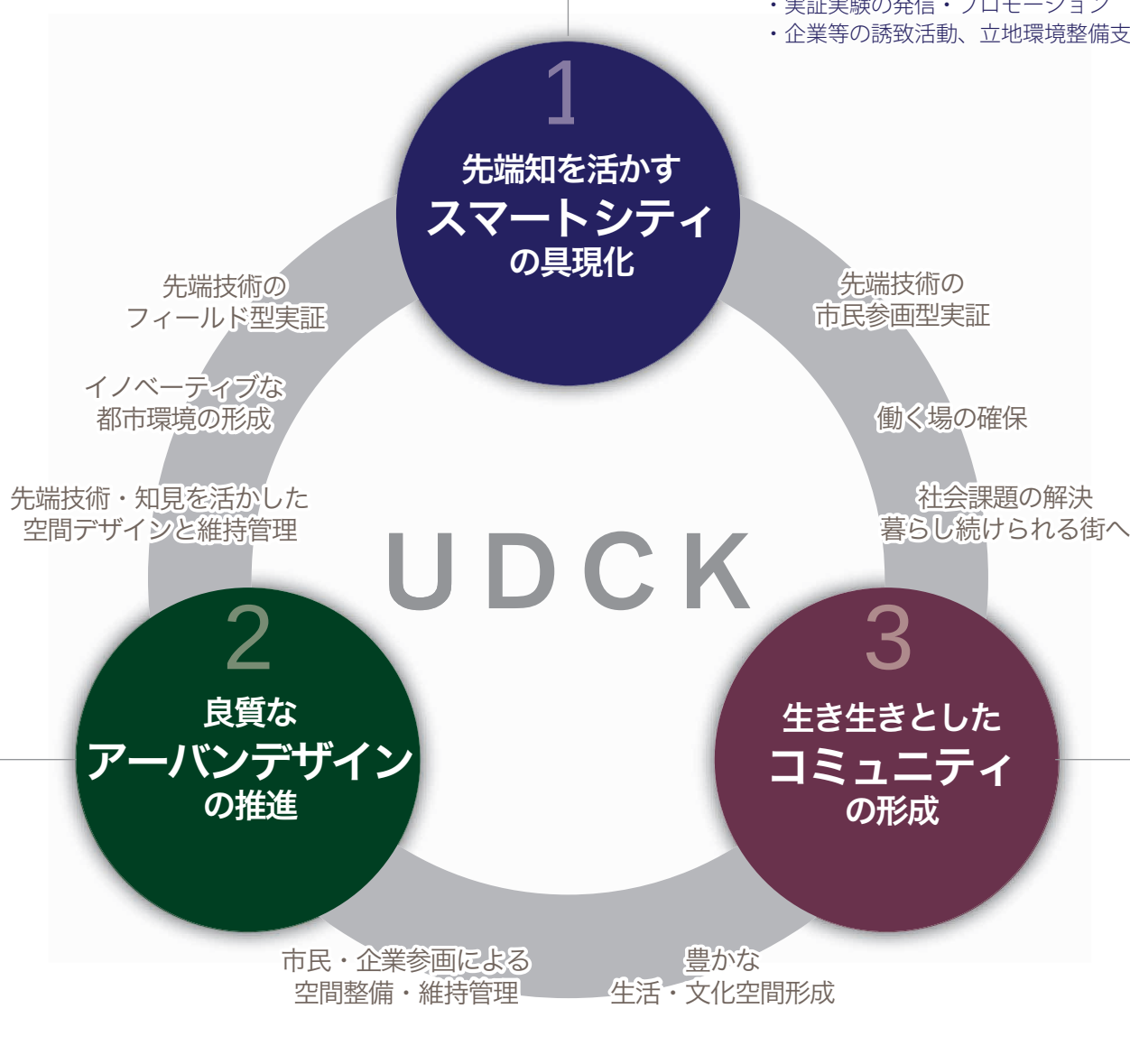
UDCKは、柏の葉国際キャンパスタウン構想の実現を使命としながら、多分野にわたるプロジェクトの推進・支援を行っています。

その活動テーマは、以下の3つに大別できます。

1. 先端知を活かすスマートシティの具現化
2. 良質なアーバンデザインの推進
3. 生き生きとしたコミュニティの形成

これらに総合的に取り組むことで、例えば、新技術を取り入れた先端的なプロジェクトを、実際の空間やコミュニティに落とし込みながら推進したり、あるいは地域コミュニティと共に良質な都市空間のマネジメントを行ったりできることが、UDCKの大きな特長となっています。

- ・先導的なテーマでのプロジェクト企画・運営
- ・実証実験等の受け入れ環境整備・各種調整
- ・モニターの募集協力
- ・実証実験の運営、イベント企画等支援
- ・実証実験の発信・プロモーション
- ・企業等の誘致活動、立地環境整備支援



- ・地区のビジョンやガイドラインの策定
- ・公共施設に係るデザイン検討・協議
- ・公民の役割分担による施設の高質化及び管理運営の仕組みづくりと調整
- ・高質化した公共空間の管理と活用促進
- ・個別開発における景観協議
- ・デザイン教育や普及啓発

- ・まちづくりスクールの開催
- ・子どもたちのための学び・体験プログラム
- ・フォーラムや参加型イベントの開催
- ・地域活動の支援・連携
- ・交流の場（サロン）の開催
- ・まちの情報発信
- ・地域自治組織の立ち上げと運営支援



1 スマートシティ

〈最先端〉をつなげ、
〈街なか〉に展開する

大学の進める先端研究のフィールドでの実証や、民間企業の開発する新技術の実験的導入に対して、必要な環境整備や地元との調整、モニターの募集協力など、各種支援を行っています。最先端の知識・技術を地域の市民生活とつなぎながら、新規事業の創造とスマートシティの構築を一体的に進めます。

環境負荷の低減

◆エネルギーマネジメント

住戸やオフィスでのエネルギー使用状況の見える化や、街区を超えた電力融通など、地区レベルでのエネルギー管理を推進しています。

◆環境配慮型開発

駅周辺の重点地区における環境配慮ガイドラインを策定し、環境負荷を抑えた開発を誘導しています。

次世代モビリティの実証

自転車や電気自動車のシェアリング、セグウェイ等の新たなモビリティの活用、自動運転バスの導入など、駅を中心とした半径2km圏の快適な移動環境形成に向けた、実証実験に取り組んでいます。

健康につながるまちづくり

◆まちの健康研究所 [あ・し・た]

あるく・しゃべる・たべるを通じた地域の健康づくり拠点「まちの健康研究所 [あ・し・た]」(2014.4-)の運営をサポートしています。

◆ウォーカブルデザインの推進

歩くことが楽しくなる街の実現に向け「ウォーカブルデザインガイドライン」を策定(2018.2)。歩くことの普及と歩行環境の整備・改善を推進しています。

Society5.0の実現（スマートシティ構想）

新技術を活用したデータ駆動型のまちづくり、Society5.0の実現に向け、公・民・学の連携による総合的な取り組みを推進します。国の支援も受けながらビジョンを策定し、地域で同時に展開するプロジェクトをマネジメントします。『スマートライフパス』を利用し、データの収集や連携基盤の構築、市民の参画、まちづくりへの展開を推進します。

フィールド型実証実験の受け入れと支援

UDCKの設立以来、地域と大学の連携をベースに、関連企業の参画・協力を得ながら、環境・交通・健康・公共サービス等に係る様々な実証実験を推進してきました。2019年2月には、フィールド型の実証実験の支援プラットフォーム「イノベーションフィールド 柏の葉」を開設し、受け入れ環境を拡充しています。

まちの国際化

国際的な学術研究都市として、世界中から人や企業が集うまちになるために、案内やサービスの外国語対応、外国籍者でも利用しやすい住居や生活利便施設・教育環境の整備、様々な国際交流が日常的に行われる場づくりなど、まちの国際化に取り組んでいます。





2 アーバンデザイン

キャンパスのような
〈都市空間〉を創り育む

国際キャンパスタウンにふさわしい創造性にあふれた良質な都市空間の形成に向け、行政・市民・民間事業者の協働を主導しています。公共空間デザインに係る検討・協議、建築活動に係る助言、地域の合意形成支援、景観教育・普及啓発など、優れた空間形成に向けた取り組みを総合的に進めます。

開発に係るビジョンやガイドライン策定

既定の事業計画・都市計画を補う形で、エリア全体のアーバンデザイン戦略、鉄道高架下利用マスタープラン、次期開発地区のまちづくりビジョンなど、土地利用や空間デザインの考え方を検討・策定しています。

公共空間のデザイン・マネジメント

◆柏の葉キャンパス駅西口駅前

まちの顔にふさわしい駅前空間となるよう、駅前広場と駅前通りの高質化（ケヤキの高木植栽、舗装やファニチャー類の設置、イベント用電源・水栓の設置等）を行いました(2014.4-)。柏市や地域との役割分担による管理運営を行っています。

◆柏の葉アクアテラス

キャンパス駅北側の次期開発地区の中心に位置する調整池を、交流を育む水辺のオープンスペースにとらえなおし、親水性のあるイベントスペースや様々な憩いの空間を整備しました(2016.11)。柏市や地域との役割分担による管理運営を行っています。

- ◆沿道と一体となった区画道路の高質化
- ◆公共サイン整備方針の策定と設置推進
- ◆屋台の実証と事業化（かけだし横丁）
- ◆公園・緑地のデザイン調整

個別開発の景観協議

柏の葉キャンパス駅周辺は、柏市の景観重点地区に指定され、詳細な景観形成基準が定められています。UDCKは柏市より景観整備機構の指定を受け、地域密着型の専門機関として、個別開発や屋外広告物の掲出に際して景観協議を行っています。

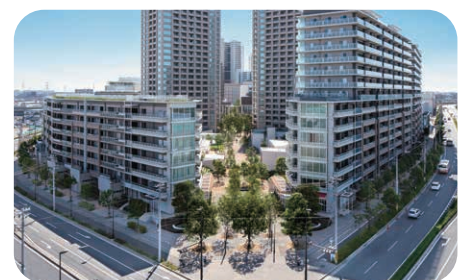
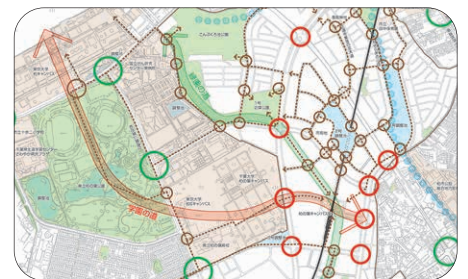
農あるまちづくり

柏たなか駅周辺では「都市農業と共存する田園都市づくり」に向け、駅前公園にまちづくりの拠点「環境コンビニステーション」を設置し、農業体験農園の運営支援、農をテーマにしたイベントの開催、農村集落の原風景を受け継ぐ都市環境形成に取り組まれています。

UDCKは、これらの活動にも参画・連携・支援を行っています。

都市環境デザインスタジオ

東京大学・千葉大学・東京理科大学・筑波大学の4つの大学院共同による都市デザイン演習です。受講生は行政・民間企業・地域住民等とのオープンな議論を通じて、柏の葉エリアの将来像を提案します。提案のいくつかは、実践につながっています。





3 コミュニティ

このまちでは、誰もが〈主役〉

コミュニティ・プログラムを通じてまちに暮らす人々がまちに係る機会を充実させるとともに、まちで行われている様々な活動を連携させ、活動を支援していきます。一人一人が楽しみながら、地域の価値を創造・維持・発展させる、自律するエリアマネジメントの構築を目指しています。

市民講座やフォーラム

まちづくりの担い手育成を目的とした市民講座「まちづくりスクール」（不定期開催）のほか、「環境」「子ども」などさまざまなテーマで有識者や各地の実践者を招いたフォーラムを開催し、これからのまちづくりを多くの方々と一緒に考える機会を提供しています。

みんなのまちづくりスタジオ

市民との対話・共創により、スマートシティプロジェクトを推進する「柏の葉版リビングラボ」プログラムです。まちの課題やニーズを起点に、市民とともに新たなサービスや製品のアイデアを生み出し、実装を目指します。オンライン上の対話プラットフォーム「みんスタONLINE」も運用しています。

子ども達のための学び・体験プログラム

地元の小中学校や高校との連携や、独自の子ども・若年層向けのプログラムを通じ、将来を担う世代をまち全体で育むプログラムを実施・支援しています。

◆夏休み自由研究フェス

夏休み期間中の子どもたちの探求心を刺激するワークショップや体験プログラムを、地域の企業や大学、市民団体と連携して多数提供しています。

地域活動の支援・イベント連携

柏の葉で地域活動やイベントを行う団体が日常的に集い、情報共有、企画の連携、広報協力を行っています。毎年秋には、地域で行われるイベントをまとめて発信する「街まるごとオープンキャンパス」を企画・運営しています。

多様なメディアでの情報発信

柏の葉のイベントポータルサイト「柏の葉ナビ」や各種SNSを運営するほか、駅前サイネージや商業施設内の情報発信スペースなども活用して、まちの情報を総合的に発信しています。

交流の場の提供 Kサロンほか

毎月最終水曜日に開催するKサロンは、毎回ゲストスピーカーを招き、お酒片手にまちを語るまちの交流会です。また、UDCKメンバーシップに登録した地域団体による施設利用を進めています。

まちづくり協議会・ふるさと協議会

町会・自治会・マンション管理組合が連合した柏の葉キャンパス駅周辺のまちづくり協議会や、より広域のふるさと協議会と密に連携し、防災、美化、子育て支援など、持続的な地域自治体制の強化に取り組んでいます。



柏の葉のまちづくりとUDCKのあゆみ

- 1979** 米軍柏通信所 全面返還
1984 柏通信所跡地土地区画整理事業 事業認可 (～1990)
1985 運輸政策審議会において常磐新線(現TX)の整備を答申
1991 千葉大学柏農場発足(2003に環境健康フィールド科学センターに改組)
2000 東京大学柏キャンパス開設(宇宙線研究所、物性研究所)
柏北部中央地区一体型特定土地区画整理事業 事業認可
2001 柏北部東地区一体型特定土地区画整理事業 事業認可(～2017)
2005 つくばエクスプレス開業
全国都市再生モデル調査の採択(柏・流山地域)

- 2006** ららぽーと柏の葉開業
東京大学北沢猛教授の提案によりUDCK設立 第1期施設開設

UDCK関連プロジェクト

- 2007** | 都市環境デザインスタジオ'06-
| まちづくりスクール'07-
| ビノキオプロジェクト'07-
| 小さな公共空間(PLS)実証実験'07-
2008 柏の葉国際キャンパスタウン構想策定
柏の葉キャンパスPC一番街入居開始
| CO2見える化'08-
| まちのクラブ活動'08-
| 柏たなか農あるまちづくり'08-
| 柏ITS推進協議会'09-
2009 | TXアントレプレナーパートナーズ設立'09-
| 千葉大学カレッジリンク・プログラム'09-
| マルシェコロール定期開催'09-
| スマートサイクル(自転車シェア)実証実験'10-17



UDCK 第1期施設
(2006.11-2010.8)

- 2010** 柏の葉キャンパスPC二番街入居開始

- 2010** UDCK 第2期施設へ移転
2011 世界の未来像をつくる街「柏の葉スマートシティ」コンセプト発表
一般社団法人柏の葉アーバンデザインセンター設立
環境未来都市・地域活性化総合特区指定



UDCK 第2期施設
(2010.9-2014.3)

- 2012** | 駅前まちづくり協議会設立'11-
| 街まるごとオープンキャンパス'11-
| エリアエネルギーマネジメントシステム'12-
| 柏の葉交通戦略'13
| 柏の葉アーバンデザイン戦略'13

- 2013** 景観整備機構・都市再生推進法人指定

- 2014** 駅前複合街区ゲートスクエアオープン
UDCK 第3期施設へ移転(東京大学駅前サテライト1階)
柏の葉キャンパス駅西口駅前高質化(UDCK管理開始)



UDCK 第3期施設
(2014.4-2020.9)

- 2015** | イノベーション・キャンパス(IC)構想'14
| 未来こどもがっこう'15-
| 屋台プロジェクト'15-'16 → かけだし横丁'18

- 2016** 柏の葉アクアテラスオープン(UDCK管理開始)

- 2017** | セグウェイ公道走行実験'16-'17
| 地域環境国際化戦略'17
| IC地区 LEED-NDプラチナ認証'17
2018 | ウォーカブルデザインガイドライン'18

- 2019** 一般社団法人UDCKタウンマネジメント設立
産業技術総合研究所柏センター 本格稼働
柏の葉国際キャンパスタウン構想 改定
国土交通省スマートシティ先行モデルプロジェクトに選定

- 2020** UDCK施設全面改装(第4期施設)

- | スマートライフバス柏の葉'20-
| みんなのまちづくりスタジオ'20-

- 2021** | まちの健康研究所あ・し・た拡張'21-
| AIカメラ運用開始'21-

- 2022** ライフサイエンス拠点化構想

- 2023** | Link Garden Fes'23-
| 環境フェスタin柏の葉'23-
2024 | 脱炭素計画'23-
| 夏休み自由研究フェス'24-
2025 | イノベーションフォレスト構想'25-

施設案内

2014年4月に東京大学の駅前サテライト1階に移転しました。オープンデッキ・ラウンジ・オフィス・インフォメーション等の構成はそれまでの施設を継承しています。2020年10月に全面改装を行い、イベント等で活用できるラウンジを拡張しました。



インフォメーション

各種受付を行うほか、地域情報のパンフレットなども集められており、自由にご覧いただけます。

ラウンジ/オープンデッキ

柏の葉のまちづくりに関する会議やワークショップなど、多様な活動が行われます。柏の葉エリアの街づくりに係る資料や関連書籍などを常設し、今のまちの姿やまちづくりの取り組みを知ることができます。関係者が利用していない時間帯は、ちょっとした打合せや開架資料の閲覧など、一般の方でもご利用いただけます。



柏の葉アーバンデザインセンター [UDCK]

〒277-0871

千葉県柏市若葉178-4 柏の葉キャンパス148-4

東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト103

開館時間：月～土曜日 10:00～19:00

休館日：日曜日・祝日・夏季・年末年始

見学：無料

Tel: 04-7140-9686 Fax: 04-7140-9688

E-mail: info@udck.jp

Web: <http://www.udck.jp/>

Web

